

津別高看板制作 3年生が主導



電動ドリルを使って看板の文字を固定する津別高3年の生徒たち

同校は、地元の自然や歴史、産業や行政などのテーマを、地元の人たちとの協力で学んでいく「つべつ学」という独自の授業を2019年度から続けており、看板設置もその授業の一環。

昨年12月に同校3年の「魅力発信班」に所属する柏葉幸音さん（18）が「以前から看板の文字が読みにくいと思っていました」と問題提起。生徒らで複数のデザイン案を出し、全校生徒と町内の中学3年生、地域の人たちによるコンペで最終案を

デザイン考え設置「進学の日印」期待も

設置場所は従来の案内看板のそば。11月22日に設置作業が行われ、柏葉さんは「この看板を見て、進学先にうちの高校を選んでくれる人が増えてくれればうれしい」と笑顔を見せた。（青山秀行）

出来上がった看板は、直径十数センチほどのカラマツ材の丸太を積み上げ、高さ90センチ、幅1メートル80センチ。国道に面した表側には、木板を白色に塗った「津別高校」、裏側には爽やかな緑色に塗った「TSUBETSU HIGH SCHOOL」という文字を張り付けた。

【津別】津別高3年の生徒18人が、国道240号から同校へと向かう案内看板を独自に制作し、設置作業を行った。道立高校には通常、入り口周辺の道路沿いに、全道共通の案内看板が立っているが「デザインが古く、文字も経年劣化でかすれ、見づらい」と、生徒たちが看板の更新を提案。林業のまち津別らしい木製看板に仕立てた。

材料調達や設置場所の選定は、生徒自ら町内の業者や町役場などと協議。その結果、看板の材料とする木材などは町森林組合から無償提供を受け、制作は町内の清水建設に依頼。町からは看板を立てるため、町有地の無償貸与を受けることができた。

町森林組合提供の木材活用